

いで通過すべきである。その方が安全だし、時間もかからない。それに楽しい。

～朝日沢：朝日沢手前のゴルジュ内の瀬は、泳ごうとしても流れが強く、押し返されてしまう。ここは左岸から捲いて懸垂下降する。右から行っても良いが、急な草付のトラバースが続くので危険だ。他は何なく行ける。

～奥の二俣：流れが急に細くなり、河幅もせばまって3～6mの幅となる。滝も連続するようになるが、ほとんど直登できる。釜を泳いで取り付く場合もあるが、流れが強くないので楽である。ただ8mの滝が2つ連続する所は、1つ目は登れても、2つ目が水流が強くて登れない。左から捲いてできるだけ早くトラバースに入る。テント場は流れのすぐ脇になるので、雨が降ったりしたら尾根上まで逃げなくてははいけない。

～稜線：滝が連続するが、努めて直登すべきである。難しそうでも実際にはそれほどではなく、晴れていると快適なシャワータイムとなる。シビアな登攀もあるが、ザイルを出すまでの必要はない。源流では沢が分かれるようになるが、主流はわかりやすいので間違えることはないと思う。次第に草原の谷の中を登るようになり、最後は急な湿原を登りきってやぶこぎ3mで稜線の登山道に飛び出す。そこから頂上までは右に5～10分である。頂上は湿原の中に池塘と三角点がある。

この沢は思い切り泳いだり直登しなければ価値を見出すことができない。なお、東ノ沢はどうということもなく下れ、ザイルなど全く必要ない。ただアブの多さははんばではなかった。気が狂うほど多かった。 (記・

平ヶ岳・恋ノ岐川

1983年8月12～14日

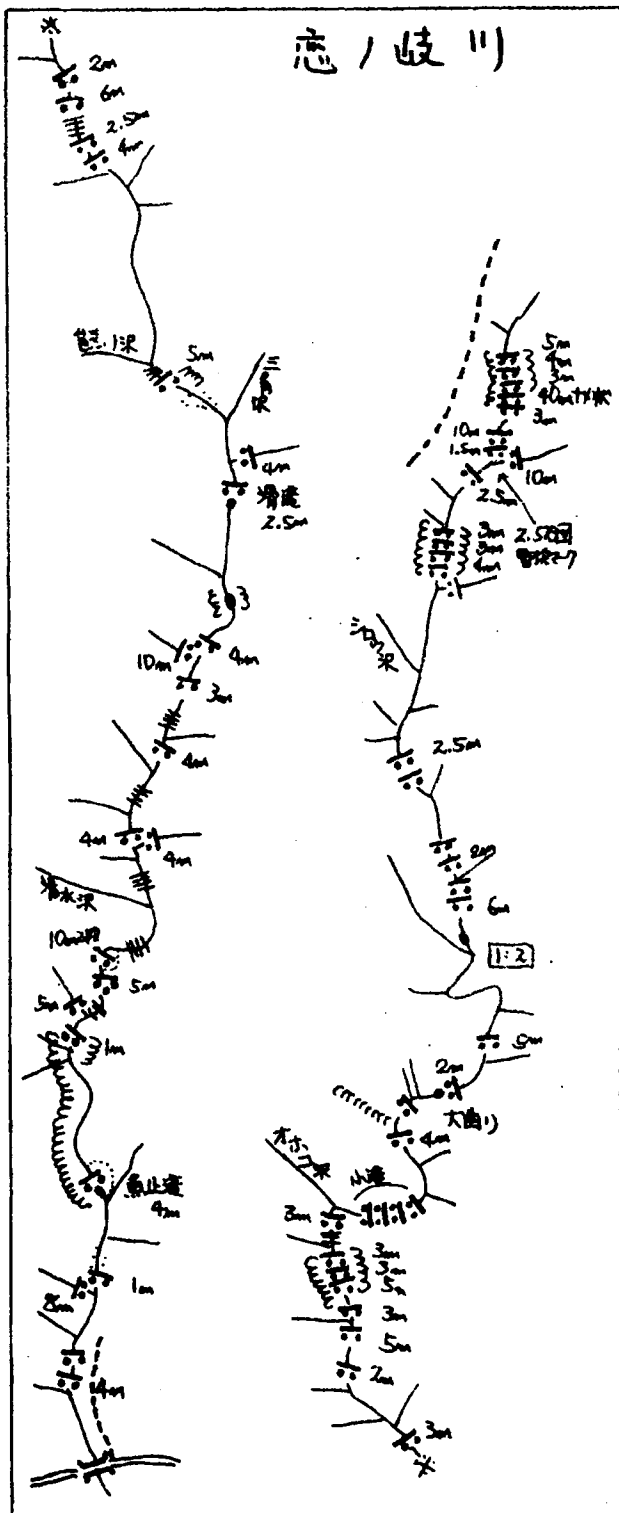
L

8月12日 晴。 福島(17:40)→恋ノ岐川出合(23:00)

西さんの車で出発。御池を越えて、恋ノ岐川の橋の所でビバーク。釣り人のテントが数張り。

8月13日 晴。 出合(5:05)→清水沢出合(7:00)→オホコ沢出合(11:40)→沢終了(16:30)→登山道(17:00)→幕営地(17:35)

うす暗いうちに朝食。5:05 出発。釣り人に気を使って、5分程左岸の踏跡を歩



いてから沢に入る。花崗岩の低い廊下状のきれいな沢で、へつりながら進む。ホールド、スタンスとも充分で、快適な沢登りを楽しむ。

トイ状の小滝を越えるとまもなく魚止めの滝。1/2.5万図の位置とは少し違うようである。ここは、左岸の踏跡を使って捲く。すぐゴルジュ。長さはわずかで、右岸の岩場をへつってぬける。ここからは2~3mから5m程の滝と、ナメが交互に現われる。

やがて、2人の釣り人に追いつく。我々の後では釣りにならず、清水沢に入るとの事。1/2.5万図の清水小屋(山菜小屋)は現在はすでになく、その跡さえ草におおわれて注意しなければわからないという(釣り人の話)。また、清水沢にしても、出合の沢幅は狭く、水量も少ないので、沢は確認しても清水沢と思わず通り過ぎやすいから注意が必要。

ここから先もまた、ナメと河原が繰り返し、忘れた頃に滝が出てくる。落差はあまりないが、割合大きな釜を持っている。

8時、1つの釜に本流と右岸の支流から滝が落ちて「めおと滝」風のきれいな滝が出て

くる。左岸をシャワーで越える。8時半、2.5m程の滑滝(滝の名前)を越える。まもなく右手より三角沢が入る。そして、また2.5m程のナメ滝を越えると熊ノ沢である。

今日は朝食が早かったので、少し早目と思ったが、10時10分に昼食をとり、また歩き出す。沢が平凡なのに加え、満腹なので体がだるい。

このあたりからまたナメ状の滝が数多く出てくる。オホコ沢を過ぎると、右岸に土のえぐれたような溝が現われ、すぐわきの段丘上にはビバークした跡があり、ワラジが脱ぎすてられていた。まだはけそうなので、ひろってゆく。ここはキャンプサイトとして快適そうである。このあたりを「大曲がり」と呼ぶそうである。

13時15分、なんとなく登っているうちに、左手の登山道がある1751mのピークにつきあげる支流の出合まできてしまった。水量比は、本流:支流=2:1位。時間も早いので、どうやら山頂まで行けそうである。気をもち直して進む。

沢は狭くなって水量も少なくなったが、あい変わらず深い釜、淵があり、そこにはイワナがゆうゆうと泳いでいる。だんだん傾斜がきつくなり、小滝が連続して出てくる。

15時20分、1/2.5万図の雪渓マークのある二俣の所に到着。雪渓はすでになく、両側から滝が落ちている。我々は、登山道に近い左俣に入る。こちらは、小滝の上には15mの滝が続き、直登する。やがて、40mはあろうかと思われるナメ滝に出る。ここは、この沢最大の滝であるが、水量が少ないために、右側をほとんど濡れることなく登る。

それから3つの滝を越した所から右岸の支流をつめ、ヤブをこいで登山道に出る。ここで小休止。すぐ目の前に池ノ岳の岩壁が見える。15分程で登りきり、姫池ノ原。池塘には快晴の空がうつっている。ここからわずかの所の幕営指定地にツェルトを設営する。

8月14日 快晴。 幕営地(6:00)→平ヶ岳山頂(6:15, 6:45)→姫池ノ原(7:00)→台倉山(8:30)→林道(10:45)→下台倉沢(10:50, 12:50)→登山口(13:00)→福島(19:30)

今日はこの夏一番といってよいほどのいい天気である。朝食の後平ヶ岳の山頂へ。焼・駒・荒沢はもちろん、遠くには富士山までが雲海に浮かんでいる。ゆっくりと展望を楽しんでから登山道を下山。 (記)